

第5章 空 港



広島空港でのG7広島サミット参加者出迎え

1 広島空港の概要

(1) 広島空港の現状

広島空港は、3,000mの滑走路、9つのスポットを有するエプロンや最新鋭の設備とともに、31,000 m²の旅客ターミナルビル、3,900 m²の貨物ターミナル施設などを備えた中国・四国地方最大の空港である。

また、平成29年10月29日から、空港の運用時間が夜間1時間延長され、15時間（7：30～22：30）となっている。

国内定期路線は、新型コロナウイルス感染症の影響からほぼ回復し、令和5年度の旅客数は、コロナ前の令和元年度比では94.3%となった。また、国際定期路線は、令和2年3月下旬以降、全路線運休となっていたが、令和5年1月に台湾線が復便し、令和5年度には、大連・北京線、上海線が復便するとともに、ソウル線が就航した。

令和3年7月から広島空港の運営を開始した広島国際空港（株）（以下「H I A P」）等と連携し、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復状況を踏まえながら、中国・四国地方の拠点空港として、また、本県の新たな経済成長を支えるグローバルゲートウェイとして、引き続き利便性の向上や利用促進を図る。

広島空港の概要

設置管理者		国土交通大臣		
飛行場の種類		空港法第4条第1項第5号に掲げる空港		
供用開始日		平成5年10月29日（3,000m滑走路供用：平成13年1月25日）		
施設	告示年月日	平成12年12月28日（運輸省告示414号）		
	管理面積	1,948,484 m ²		
	基本施設 （ターミナル拡張計画を含む。）	着陸帯	長さ	3,120m×幅 300m
		滑走路	長さ	3,000m×幅 60m
		誘導路	総延長	3,290m
エプロン		120,300 m ² （サブターミナルを含む。）		
概要	航空灯火	進入灯、進入角指示灯、中心線灯、滑走路灯、誘導路灯、エプロン照明灯等		
要	通信施設	遠隔空港対空通信施設、飛行場情報放送業務施設		
	航空保安無線施設	I L S（計器着陸装置）、A S R（空港監視レーダー）、S S R（二次監視レーダー）、V O R / D M E（超短波全方向無線標識装置／距離測定装置）		
	気象観測施設	滑走路視距離測定器、風向風速観測装置、雲高測定器等		
運用時間		15時間（利用時間：7時30分から22時30分まで）		

(2) 主な施設整備等の状況（国土交通省事業）

時 期	内 容	目 的
平成 20 年 6 月	計器着陸施設の高度化（CAT-Ⅲa）	視界不良による欠航、ダイバート（目的外空港への着陸）、遅延等の改善
平成 21 年 7 月	計器着陸施設の高度化（CAT-Ⅲb）	
令和 3 年 4 月以降	滑走路端安全区域（RESA）の整備	航空機がオーバーラン及びアンダーシュートした場合に航空機の損傷を軽減

(3) アクセスの充実

広島空港へのアクセスとしては、広島（広島駅新幹線口・広島バスセンター）、呉、三原、福山、西条からの空港アクセスバス、J R 白市駅からの空港連絡バス、竹原、忠海、尾道、宮島口、アルパーク・ジ アウトレット広島からの乗合タクシーの計 12 路線が運行されている（令和 6 年 4 月 1 日現在）。

空港アクセスバス等の利便性向上については、平成 28 年 1 月に、J R 白市駅のバリアフリー化（跨線橋の架替、エレベーター設置等）、平成 29 年度には、J R 白市駅・広島空港間の主要地方道（東広島本郷忠海線）に凍結防止剤散布装置等を設置し、J R 白市駅からの空港連絡バスの定時性向上につなげた。

さらに、令和 2 年 1 月に、広島空港及び広島県内計 8 か所（広島空港（国内線・国際線）、広島バスセンター（2 番ホーム、券売機待合）、広島駅新幹線口、中筋駅バス停、福山駅、白市駅）に、空港アクセスバス等の発車時刻や運行状況等を表示するデジタルサイネージを設置した。

今後は、広域的かつ利便性の高い空港アクセスネットワークの構築に向けて、「広島空港アクセス対策アクションプログラム」に基づき、関係機関との連携・協力の下、トリプルウェイの早期完成やアクセス向上に資する道路の整備、広島空港とダイレクトアクセス可能な拠点の拡充、多様なニーズに対応できる交通モードの確保等の各種取組を推進する。

一方で、H I A P においては、駐車場機能及びレンタカー機能の強化のため、令和 5 年 4 月にターミナル前に新たな立体駐車場を整備し駐車場予約サービスの運用を開始した。さらに、令和 6 年度中に、ワンストップでのサービス提供が可能なレンタカーステーションの供用を開始する予定。

(4) 航空ネットワークの維持・拡充

H I A P や官民で構成される広島空港振興協議会等と連携し、既存路線の早期復便や増便に取り組む。

(5) 空港の振興

官民一体となって空港の振興策を推進するため、平成 6 年 3 月に設立した広島空港振興協議会（会長：広島県商工会議所連合会会頭、構成員：県、広島市、広島国際空港（株）、経済団体等）において、就航路線の利用促進などの需要の拡大を図る。

(6) 空港経営改革の導入

広島空港が、本県の経済成長を促す役割を担うとともに、中四国地方の拠点空港として今後も継続的に発展していくため、県は平成29年3月に「広島空港の経営改革に係る県の基本方針」を策定し、広島空港の空港経営改革を推進することとした。

国は、平成31年3月から導入・空港運営権者の選定手続を本格的に開始し、令和3年7月に空港運営権者として選定されたH I A Pによる空港運営が開始された。

県の基本方針も反映されたH I A Pの提案「将来ビジョン」を共有し、その実現に向けて連携して取り組むために、H I A Pと県は30年間にわたるパートナーシップ協定を締結した。

(7) 令和6年度事業の内容

(単位：千円)

区 分	予 算 額	事 業 内 容
直轄空港建設費等負担金	741,000	広島空港の施設整備等に係る直轄負担金
空港関連施設等管理費	23,381	広島空港周辺県有地の管理等
広島空港開港記念 モニュメント移設事業	38,613	広島空港開港記念モニュメントの移設
空港周辺対策事業	39,225	広島空港周辺の環境対策等
空 港 振 興 事 業	278,252※	空港運営権者等と連携した、航空ネットワークの 拡充及び空港アクセスの利便性向上等
合 計	1,120,471※	※令和5年度2月補正予算(40,306千円)を含む

参考 広島空港の定期航空路線の概要（令和6年夏ダイヤの運航計画）

(1) 国内線の現況

（令和6年3月31日現在）

地域	路線	航空会社	便数／日	主な使用機材	令和元年度旅客数	令和5年度旅客数	対令和元年度比	備考
北海道	札幌 (新千歳)	全日本空輸	1	B737-800	167,840人	193,141人	115.1%	H27.10.25～ (S61.3.1～)
		日本航空	1	B737-800				H8.8.2～
東北	仙台	IBEXエアラインズ (全日本空輸)	3	CRJ	76,585人	115,080人	150.3%	H21.9.1～ (H4.10.25～)
東京	成田	IBEXエアラインズ (全日本空輸)	運休	CRJ	249,857人	209,620人	83.9%	H15.8.1～
		スプリング ジャパン	2	B737-800				H26.8.1～
	東京 (羽田)	全日本空輸	8	B767 B767-300 B787-8 B787-9 B737-800	2,035,207人	1,875,363人	92.1%	S37.10.14～
日本航空		7	B737-800	H2.7.21～ (S63.7.23～)				
沖縄	那覇	全日本空輸	1	B767-300	135,896人	119,819人	88.2%	S61.4.26～
<定期便計>	5路線	4社	日23便		2,665,385人	2,513,023人	94.3%	
チャーター便					4,140人	4,003人	96.7%	
<国内線合計>					2,669,525人	2,517,026人	94.3%	

(2) 国際線の現況

（令和6年3月31日現在）

国・地域	路線	航空会社	便数／週	使用機材	令和元年度旅客数	令和5年度旅客数	対令和元年度比	備考
韓国	ソウル	チェジュ航空	13	B737-800 (174席、 189席)	36,563人	88,446人	241.9%	R5.7.13～
中国	大連・北京	中国国際航空 (全日本空輸)	3	B737-800 (165席)	33,827人	8,418人	24.9%	H10.2.26～
	上海	中国東方航空 (日本航空)	3	A320 (156席)	57,773人	13,011人	22.5%	H8.2.6～ (H23.7.22～成都延伸) H30.3.25～成都延伸 休止
台湾	台北	チャイナエアライン (日本航空)	5	A321neo (168席)	84,778人	58,243人	68.7%	H16.6.2～
香港	香港	香港エクスプレス	運休	A320 (180席、 188席)	42,264人	0人	0.0%	H27.10.27～ R2.3.9～運休
シンガポール	シンガポール	シルクエアー (シンガポール航空)	運休	B737-800 NG(162席)	34,378人	0人	0.0%	H29.10.30～ R2.3.27～運休
タイ	バンコク	ノックエア	運休	B737-800 (189席)	5,160人	0人	0.0%	R元.12.18～ R2.3.8～運休
<定期便計>	7路線	7社	週24便		294,743人	168,118人	57.0%	
チャーター便					9,940人	545人	5.5%	
<国際線合計>					304,683人	168,663人	55.4%	

2 広島ヘリポートの概要

(1) 広島ヘリポートの管理・運営

平成22年10月30日の定期路線の撤退により、小型機専用飛行場として運営していた広島西飛行場を平成24年11月15日付けで廃止、同日付けで広島ヘリポートとして供用開始し、ヘリコプター運航及び利用者の安全確保に必要なサービスを行っている。

なお、広島西飛行場の範囲でヘリポートを供用開始した後、段階的にヘリポート区域を縮小し、平成27年4月から最終形区域での供用を開始した。また、この最終形区域での供用開始に合わせて、指定管理者制度を導入し、「日本空港コンサルタンツ・大成有楽不動産連合体」が指定管理者として管理運営を行っている（令和2年4月1日から令和7年3月31日まで〔5年間〕）。

また、広島ヘリポート管理事務所の老朽化が進んでいたため、旧広島西飛行場ターミナルビルを取得し、建物の改修及び管理事務所の移転を行い、令和元年9月から新管理事務所での業務を開始した。さらに、令和3年4月に旧管理事務所棟の解体工事と外構工事（柵設置等）が完了した。

広島ヘリポートの概要

設置管理者	広島県		
飛行場の種類	陸上ヘリポート（公共用）		
供用開始日	平成24年11月15日		
施設概要	管理面積	108,280 m ²	
	基本施設	着陸帯	長さ35m, 幅30m
		誘導路	長さ28m, 幅9m
		エプロン	20,574 m ² 、スポット14
航空灯火	飛行場灯台、誘導路灯、風向灯、境界灯、境界誘導路灯		
通信施設	対空通信施設一式		
気象観測施設	風向風速観測装置等		
運用時間	10時間30分（利用時間：8時30分から19時00分まで）		

(2) 令和6年度の事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
広島ヘリポート管理費	137,965	ヘリポートの管理・運営等
広島ヘリポート整備事業	62,263	ヘリポート施設の整備等
広島ヘリポート維持修繕費	10,180	ヘリポート施設の維持管理等
計	210,408	